

大阪府がん登録モデルに関する研究

分担研究者 井岡亜希子 大阪府立成人病センターがん予防情報センター企画調査課参事

研究要旨

大阪府がん登録に登録された小児がん（0～19歳）を対象に、大阪府がん登録モデル（大阪府がん登録における小児がん全数把握登録項目の収集および登録体制）の効果を分析した。届出票の情報を有するのは全体の約8割に留まったことから、小児がんの届出漏れの補完における本モデルの寄与は大きかった。0～14歳の約9割が小児がん全数把握登録項目の情報を有したことから、当該診断年から早い時期での0～14歳の暫定値の公表は可能と考えられた。大阪府がん登録モデルの効果として、小児がんデータの精度向上、小児がん（15歳未満）罹患の暫定値の公表などが挙げられ、本モデルは小児がん対策の企画と評価において有用である。

A．研究目的

大阪府では、大阪府がん診療連携協議会小児・AYA部会（旧大阪府小児がん登録推進委員会）を中心に小児がん患者の大阪府がん登録への届出を推進しており、大阪府がん登録資料における小児がんデータの精度向上は著しい。すなわち、大阪府がん登録では、1)通常の院内がん登録からの届出、2)日本小児血液・がん学会所属の小児科医を中心とした小児がん全数把握登録項目の届出、3)遡り調査票の届出、の3種類の届出方法により、小児がん登録の精度向上に努めている。

一方、厚生労働省指定がん診療連携拠点病院では、2007年診断患者の院内がん登録からその体制が強化されており、地域がん登録への届出件数は急増している。その結果、2)の届出方法の必要性が疑問視されている。

そこで、大阪府がん登録に登録された小児がんについて、どのくらいのがんが1)～3)のいずれの票に由来しているかを明らかにし、わが国における小児がん登録体制を検討する。

B．研究方法

日本小児血液・がん学会が運用する小児がん全数把握登録の対象が19歳未満のため、大阪府がん登録に登録された、2006～2008年診断の小児がん患者(0-19歳)644名を対象とする。年齢階級は0～14歳と15～19歳、部位は「リンパ組織、造血組織（ICD10 C81-C96, D45-D47）」と「リンパ組織、造血組織以外」とする。票種類は1)届出票、2)小児がん全数把握登録項目票、3)遡り調査票の3種類である。いずれの票種類でどのくらいの対象が把握されたかについては、その指標として、票種類（「1)のみ」、「2)のみ」、「3)のみ」、「1)かつ2)」のカバー率を算出する。

（倫理面への配慮）

大阪府がん登録では、国際がん登録協議会IACRの新ガイドラインに沿って地域がん登録全国協議会が2005年9月に策定した「地域がん登録における機密保持に関するガイドライン」に従い、個人情報の保護に努めている。

C．研究結果

1．年齢階級別票種類カバー率（表1）

「1)のみ」カバー率は、0～14歳では8.1%、15～19歳では63.4%と後者で高い傾向にあったが、「2)のみ」カバー率は、0～14歳の方が高かった（0～14歳では41.9%、15～19歳では13.4%）。0～14歳の約9割が2)の情報を、15～19歳の8割超が1)の情報を有していた。

2．診断年別票種類カバー率（表2、3）

年齢階級別に票種類カバー率の推移を観察した。0～14歳について、「1)のみ」カバー率は13.2%から3.9%へと約3分の1に減少し、「2)のみ」カバー率は増加傾向が認められた。「1)かつ2)」カバー率は約50%と横ばいであった。

15～19歳について、「1)のみ」カバー率が減少傾向であり、「2)のみ」カバー率は2008年には約20%まで増加していた。

3．部位別票種類カバー率（表4）

「リンパ組織、造血組織以外」では、「リンパ組織、造血組織」と比べて、「1)のみ」および「2)のみ」カバー率が共に高い傾向にあった。

D．考察

大阪府がん登録では、小児がんの届出漏れを補完するため、大阪府内医療機関の小児科医に協力を得て、日本小児血液・がん学会の小児がん全数把握登録項目も収集および登録している。わが国における小児がん登録体制を検討するため、この大阪府がん登録モデルから得られる効果を明らかにした。

大阪府がん登録に登録された小児がんについて、その情報由来は年齢により大きく異なった。0～14歳では、その約9割が小児がん全数把握登録項目の情報を有しており、そのうちの5割弱はこの票のみで把握されていた。15～19歳では、その約3割しか小児がん全数把握登録項目の情報を有しておらず、この世代における小児科医以外の医師の影響の大きさが窺われ

た。

票種類カバー率の推移では、いずれの診断年においても、届出票の情報を有するのは全体の約8割に留まった。厚生労働省指定がん診療連携拠点病院では、2007年診断患者の院内がん登録からその体制が強化されているが、この指定要件に関わるのはわが国に多いがん（胃、大腸、肝、肺、乳がん）のみであり、小児がんは含まれていない。したがって、これら施設からの届出票件数の増加が、小児がんの届出状況に与えた影響は少なく、小児がん登録についてはこれら以外の施設の協力も必要である。大阪府がん登録モデルでは、日本小児血液・がん学会所属の小児科医の協力も得ており、小児がん登録の精度向上への寄与は大きいと考える。

地域がん登録における罹患の確定時期は、当該診断年から約3年後であるが、小児がん対策の進捗評価を適宜行うため、それよりも早い時期に暫定値を公表して欲しいとの要望はある。大阪府がん登録モデルで収集している小児がん全数把握登録項目は、診断年の翌年には大阪府がん登録に届けられ、また、0～14歳のがんの約9割がこの情報を有し、票件数が年間約150件であることを考慮すると、0～14歳のがんについては、暫定値の公表は可能であると考ええる。

以上のように、小児がんデータの精度向上、小児がん（15歳未満）罹患の暫定値の公表など、大阪府がん登録モデルから得られる効果は大きい。

E．結論

日本小児血液・がん学会の小児がん全数把握登録項目も収集および登録する、大阪府がん登録モデルから得られる効果として、小児がんデータの精度向上、小児がん（15歳未満）罹患の暫定値の公表などが挙げられ、本モデルは小児がん対策の企画と評価において有用である。

F. 健康危険情報

該当する健康危険情報はない

G. 研究発表

1. 論文発表

井岡亜希子, 津熊秀明. 大阪府における
AYA (Adolescents and young adults) 世
代のがんの実態. JACR Monograph 2013;
19: 50-57.

2. 学会発表

Ioka A, Nakata K, Inoue M, Tsukuma

H. Survival of AYAs with
lymphoma/leukemia treated at
pediatric versus adult facilities
in Osaka, Japan. The 35th Annual
Meeting of the IACR October 2013,
Buenos Aires, Argentina [ポスター]

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

表1 年齢階級別票種類カバー率

	0-14歳		15-19歳	
「 ^{*1} のみ」カバー率	39	(8.1)	104	(63.4)
「 ^{*2} のみ」カバー率	201	(41.9)	22	(13.4)
「 ^{*3} のみ」カバー率	1	(0.2)	3	(1.8)
「かつ」カバー率	239	(49.8)	35	(21.3)
計	480	(100.0)	164	(100.0)

*1 通常の院内がん登録からの届出

*2 日本小児血液・がん学会所属の小児科医を中心として小児がん全数把握登録項目の届出

*3 遡り調査票による届出

表2 診断年別票種類カバー率 - 0-14歳

	2006年		2007年		2008年	
「 ^{*1} のみ」カバー率	18	(13.2)	14	(8.6)	7	(3.9)
「 ^{*2} のみ」カバー率	47	(34.6)	68	(41.7)	86	(47.5)
「 ^{*3} のみ」カバー率	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(0.6)
「かつ」カバー率	71	(52.2)	81	(49.7)	87	(48.1)
計	136	(100.0)	163	(100.0)	181	(100.0)

*1 通常の院内がん登録からの届出

*2 日本小児血液・がん学会所属の小児科医を中心として小児がん全数把握登録項目の届出

*3 遡り調査票による届出

表3 診断年別票種類カバー率 - 15-19歳

	2006年		2007年		2008年	
「 ^{*1} のみ」カバー率	41	(75.9)	36	(60.0)	27	(54.0)
「 ^{*2} のみ」カバー率	3	(5.6)	10	(16.7)	9	(18.0)
「 ^{*3} のみ」カバー率	3	(5.6)	0	(0.0)	0	(0.0)
「かつ」カバー率	7	(13.0)	14	(23.3)	14	(28.0)
計	54	(100.0)	60	(100.0)	50	(100.0)

*1 通常の院内がん登録からの届出

*2 日本小児血液・がん学会所属の小児科医を中心として小児がん全数把握登録項目の届出

*3 遡り調査票による届出

表4 部位別票種類カバー率

	リンパ組織、造血組織		リンパ組織、造血組織以外	
「 ^{*1} のみ」カバー率	42	(16.0)	101	(26.4)
「 ^{*2} のみ」カバー率	79	(30.2)	144	(37.7)
「 ^{*3} のみ」カバー率	2	(0.8)	2	(0.5)
「かつ」カバー率	139	(53.1)	135	(35.3)
計	262	(100.0)	382	(100.0)

*1 通常の院内がん登録からの届出

*2 日本小児血液・がん学会所属の小児科医を中心として小児がん全数把握登録項目の届出

*3 遡り調査票による届出